

麻疹風疹混合予防接種の説明書

<p>麻疹とは</p>	<p>麻疹ウイルスの空気感染（ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること）によっておこる病気です。感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。感染して10～12日間の潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）のあと、最初3～4日間は鼻水、咳、目やになどのカゼ症状とともに、38℃前後の発熱が認められます。この状態が数日続いた後、一旦解熱するかにみえますが、再び39～40℃の高熱となり、全身性の発疹が現れ、高熱はさらに4～5日続きます。発疹は、頬の内側に「コプリック斑（周りが赤く中心が白い口腔粘膜にできる粘膜疹）」がでた翌日頃から出現します。麻疹に罹患すると、特異的な治療法がないため、感染から回復期までの約1ヶ月間は免疫機能低下状態が生じます。主な合併症としては、気管支炎、中耳炎、肺炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は5～15人、脳炎は1,000人に1人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約10万例に1例発生します。麻疹（はしか）にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。</p>
<p>風疹とは</p>	<p>風疹ウイルスの飛沫感染（咳やくしゃみ等により感染すること）によっておこる病気です。潜伏期間（感染してから症状がでるまでの期間）は2～3週間です。軽いカゼ症状で始まり、発しん、発熱、首や耳の下のリンパ節腫脹などを主な症状とします。そのほか目の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治りますので「三日ばしか」とも呼ばれています。約15～30%の人は不顕性感染（病気としての症状が出ず、知らない間に免疫だけができる感染のこと）で終わることが知られていますが、症状が出た場合は、特異的な治療法はなく、症状を和らげる対症療法のみです。</p> <p>合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいの割合で発生します。年長児や大人になってからかかると一般的に重症になりやすく、高熱が持続したり関節痛の頻度が高いといわれていて、3日間では治らないことが多くあります。</p>
<p>接種対象年齢 接種回数・間隔</p>	<p>【1期】1歳から2歳未満に1回 【2期】小学校就学の1年前（年長児）に1回</p>
<p>ワクチンの副反応</p>	<p>○注射部位の腫れ、発熱（37.5℃以上）などがみられます。 ○極めてまれに、脳炎や脳症が報告されています。</p> <p>.....</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>
<p>受けることができない人</p>	<p>○明らかに発熱のある人（37.5℃以上の場合） ○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人 ○医師が不相当と判断した人</p>
<p>予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人</p>	<p>○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人 ○以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人 ○今までにけいれんを起こしたことがある人 ○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人 ○発育で経過観察といわれている人</p>
<p>ワクチン接種後の注意</p>	<p>○接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこる可能性がありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。 ○接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。</p>

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">○接種後当日は過度な運動を控え、1週間は体調の変化に注意しましょう。○接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこす
ることはやめましょう。○接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。○このワクチン接種後、ほかの生ワクチンの予防接種をする場合は、中 27 日間の間隔をあ
けてください。 |
|---|

奥州市